

第95回天皇帝杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇帝杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦		
●日程	令和元年8月31日 (土) ~		
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター		
●講師	湯浅 剛様 黒岡 和哲様 茅野 修司様 高野 晃平様 飯尾 勝紀様 村田 尚美様 浅野 祐樹様 原 一正様		
●スケジュール	令和元年8月31日 (土) 9:00 集合・開講式 9:10 ルールテスト 10:00 実技講習開始 18:30 解散		
●担当試合	令和元年8月31日 (土)		
	対戦カード	大阪大谷大学 VS 大阪薫英女学院高等学校	
	主審	主審 太田	副審 木村桃、平出
	講師／主任	茅野 修司様	
	講評	クレーンとして大きなメカの崩れはなかった。その中で判定に対するアジャストはどうだったか。イリーガルとマージナルに対する意識をもう少ししなくてはならない。個人としては、判定すべきものを判定し、イリーガルなものを取り上げられていた。しかし、その中で後半にマージナルと判定しても良いケースがあったのではないかと。ゲームフローをどう感じていたか、特に後半はゲームの流れを把握していたらマージナルと簡単に判定することができたのではないかと。また、鳴らさなかったケースでは、ニュートレイルとしてバックコートから追従し、フロントコートに入った際、どこに目をつけているか。ボールがアクティブなのか、ハイポストがアクティブなのかを視野に入っていない場面があった。オフェンスとディフェンス、どちらかが仕掛けていることを把握し判定しなくてはならないので、ボールだけではない視野を持つ。B級として取り上げられる笛が安定してきた中で、ステップアップのために、A級としてどのようなプレイを捕まえられるかが求められてくるのではないかと。	
	自己の感想	クレーンチーフとして、新しい情報を共有するところから始めた。トップリーグ研修では、新たにアクティブリードとPOCにフォーカスを当てていくことをお聞きしたので、クレーンも初めて聞くことがあったと思うが、積極的にトライしていこうと共通認識をもった。ゲーム中もアイコンタクトを取りながらトライできた。しかし、リードがアクティブになるあまり、マージナルな判定が出たり、視野分担、プライマリーの理解にはもっと理解が必要だと感じた。個人的には判定するにあたり、レフェリーディフェンスを心がけた。イリーガルなのか、マージナルなのかいつもよりプレイを展開し影響が出るまで見れた。しかし、判定に至っていないプレイがあったので、特にボール以外のマッチアップをしっかりと判定できるようにポジションアジャストしていきたい。クロック管理においては正しく処置を行えたので良かった。	

2019 年 度 第 4 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第85回天皇杯 第86回皇后 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦兼令和元年度(2019年度)第66回大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和元年8月31日(土)				
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター				
●講師	湯浅 剛様・黒岡 和哲様・茅野 修司様・村田 尚美様・浅野 祐樹様				
●スケジュール	令和元年8月31日(土) 9:00 集合・開講式 9:10 ルールテスト 10:00 実技講習開始 18:30 解散				
●担当試合	令和元年8月31日(土) 13:20～				
	対戦カード	大阪体育大学		VS	履正社医療スポーツ専門学校
	CC	花谷 槇子	U1	池嶋 一幸	U2 正水 剛
	講師／主任	湯浅 剛様			
	講評	オフボールでのディフェンスの悪いプレーやボールマンに対してのディフェンスのハンドチェックや、ボディコンタクトの見極めをして、ゲームの序盤に判定基準を示してほしかった。 ガイドラインに沿った判定基準を示すことが大事。			
	自己の感想	CCとして自分の力のなさを感じた試合になりました。ゲーム中、体大のディフェンスのコンタクトが気になりつつ、判定基準をきちんと示せずに終わってしまったゲームでした。 メカニクスで特に大きな問題があったわけではないですが、あとで映像で確認した際に、リードで慌ててローテーションするのではなく、まずはクローズダウンで1度ステイし、その時のボールの位置、目の前のポストのプレイヤーの状況をみてから判断した方がよかったと思いました。(そうすることでオフボールでの判定がもっとできたかと思います。)色んなことが気になってしまって、自分のエリア、プライマリの判定に集中できていなかったのだと感じました。 いかにプレカンでベーシックなメカやガイドラインの確認が大切か、クルーを信頼し、より良いクルーワークでゲームができるかが大切だと再確認しました。 これまで沢山の講師の方々に時間を割いていただけてステップアップ講習会を重ねてきました。このような環境に甘えることなく、感謝の気持ちを忘れずに今後も目の前の1つ1つのゲームを大切に取り組んでいきたいと思ひます。			

第 4 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦		
●日程	2019年8月31日	(土) ~	2019年9月1日 (日)
●会場	サンエワーク住吉スポーツセンター・関西大学北陽高等学校		
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部		
●スケジュール	8月31日 (土)		
	9:00	集合・開講式	
	9:10	ルールテスト	
	10:00	実技講習開始	
	18:30	解散	
	9月1日 (日)		
	9:00	集合・開講式	
	9:10	ルールテスト(前日未受験の研修生)	
	10:00	実技講習開始	
	17:00	解散	
●担当試合	8月31日 (土) 10:00 ~		
	対戦カード	Black Jack VS 履正社医療スポーツ専門学校	
	審判	CC 玉上 大輔 氏	U1 田中 孝史 U2 森 照代 氏
	講師／主任	湯浅 剛 様	
	講評	1 Game通して選手自身が緊張感がないように感じた。選手側の原因であるが、Refereeとしてはコーチや選手との会話を簡潔に短くしたり、ベンチに登録者以外の子供が座っているのであればひと声かけて観客席で観てもらふ、などの配慮は必要である。また、Refereeがイリーガルバウンダリーラインクロッシングシグナルすると選手が真似をするという場面もあった。緊張感を持つためには、コート内だけではなく、コート外の事も気を配り、GameControlをする。判定に関しては、シンプルにプレイコーリング・ガイドラインに沿って判定することを徹底する。	
	自己の感想	このGameはカテゴリーが異なっていたので、アジャストするのが難しい部分があった。その中で講師の方の講評で緊張感がないと反省を頂き、もっとシンプルに判定しなければならない、という事がコート内の反省点だと思います。またベンチに登録者以外の子供が座っていたり、Refereeのイリーガルバウンダリーラインクロッシングシグナルを選手が真似をする、といった事が起こった時の対応はきちんとしなければならない。以上の様な事が今後起こらないように1 Game1 Gameを大切に緊張感を持ってRefereeに努めたいと思います。最後になりましたが、この講習会を企画運営してくださいました方々、講師の方々、このような機会を与えてくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。	

2019 年 度 第 4 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇杯、皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦		
●日程	令和元年8月31日 (土) ~ 令和元年9月1日 (日)		
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター・関西大学北陽高等学校		
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部 黒岡 和哲 様、湯浅 剛 様、茅野 修司 様、飯尾 勝紀 様、 村田 尚美 様、浅野 祐樹 様、原 一正 様		
●スケジュール	令和元年8月31日 (土)		
	9:00 開講式 9:10 ルールテスト 10:00 実技開始 最終試合終了後 閉講式		
	令和元年9月1日 (日)		
	9:00 開講式 9:10 ルールテスト(前日未受験者のみ) 10:00 実技開始 最終試合終了後 閉講式		
●担当試合	令和元年8月31日 (土) 10:00 ~		
	対戦カード	関西大学北陽高等学校 VS 大阪産業大学	
	主審	主審 大倉氏(高体連)	副審 U1西田氏(中体連) U2河崎
	講師/主任	黒岡 和哲 様	
	講評	・もっと声を使ってゲームをコントロールしていく必要がある。(テールレポートの時やクルー同士でのチームファウル情報を共有する時など。) ・チームファウルの訂正を確認した後、クルー間で声を使って共有する。(「青、チームファウルネクストボーナスです。」など。) ・プレイヤー、ベンチ、観客に分かりやすく正しい処置を伝える必要がある。(メインクロックが動いていなかったのに笛を鳴らした。その後の処置が分かりにくかったので、声を使って全体に伝える工夫が必要。) ・ショットクロックバイオレーションを宣する時は、フロアにはねたから宣するのではなく、O F、D Fの状態や前を走っているO Fの状況を見て判断しなければならない。(プライマリーとしてではなくセカンダリーとして宣するのであればなおさら注意が必要である。セカンダリーとして宣する場合はプライマリレフリーの状態、ベンチやプレイヤーの反応などもきちんと把握した上で、120%の確証がある場合に宣する。)その際は笛が遅れてもかまわない。	
	自己の感想	今回のゲームを通して改めて声の重要性を感じました。クルー同士でのコミュニケーションはもちろんですが、訂正をした場合などはプレイヤーやベンチ、観客に対してどのような処置をしたのかを適切に伝えていく必要があります。その際には笛の鳴らし方からジェスチャー、声の強弱、Short & Clearな話し方まで全てを工夫していかなければならないと思います。この「Delivery Skill」を今後は私自身の課題の一つとしてチャレンジしていきます。 また、今回のゲームでセカンダリーとしてヘルプを入れることの怖さを感じました。まずはプライマリレフリーを尊重し、明らかであるにも関わらず何らかの理由でならない場合に鳴らせるように準備をしておくことの大切さを学びました。	

第 4 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇帝杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦		
●日程	令和元年8月31日 (土) ~ 令和元年9月1日 (日)		
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター、関西大学北陽高等学校		
●講師	黒岡 和哲 様 茅野 修司 様 高野 晃平 様 飯尾 勝紀 様 村田 尚美 様 浅野 祐樹 様 湯浅 剛 様		
●スケジュール	令和元年8月31日 (土)		
	9:00 集合・開講式 9:10 ルールテスト 10:00 実技講習開始 18:30 解散		
	令和元年9月1日 (日)		
	9:00 集合・開講式 9:10 ルールテスト(前日未受験者) 10:00 実技講習開始 17:00 解散		
●担当試合	令和元年8月31日 (土) 13:20 ~		
	対戦カード	大阪大谷大学 VS 大阪薫英女学院高等学校	
	主審	主審 太田 令菜 副審 木村 桃子、平出 圭佑	
	講師／主任	茅野 修司 様	
	講評	マージナルコールがとても目立つ。ノー・ファウル、マージナル、ファウルの3つをしっかりと見極めることが必要。A級審査からも言われてきていること。笛のタイミングをもっと意識しなければならない。セカンダリーとして遅らせてコールすべきところでジャストのタイミングで笛がなっている。考え方をシフトしていかないといけない。	
	自己の感想	マージナルコールについては以前からも指摘をいただいていた。自分の中でそれをどのように改善していくかをずっと突き詰めていかなければならないと感じた。コンタクトの事実があるかどうか、コンタクトの責任はどちらにあるのか、RSBQに影響があるかどうかを自身のプライマリー内で強く意識していくことが必要だと感じた。普段映像を見るときのにもしっかりと意識してみたい。これまでA級審査にもチャレンジさせてもらったがまだまだ自分には課題の多いのが現状である。もう一度基本から積み重ねていく所存です。	

令和元年度第4回 ステップアップ研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦						
●日程	令和元年8月31日 (土) ~ 令和元年9月1日 (日)						
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター・関西大学北陽高等学校						
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部						
●スケジュール	令和元年8月31日 (土)						
	09:00 集合・開講式 09:10 ルールテスト(10問) 10:00 実技講習開始 18:30 解散						
	令和元年9月1日 (日)						
	09:00 集合・開講式 10:00 実技講習開始 17:00 解散						
●担当試合	令和元年8月31日 13:20 ~						
	対戦カード		大阪大谷大学		VS		大阪薫英女学院高校
	主審		CC	太田氏	U1	木村	U2 平出氏
	講師／主任		茅野修司氏				
	講評		・クルーワークとしては大きく崩れることなくできていた ・ゲーム自体がマージナルな現象が多かったが、笛に表しているところが多く、本当に判定すべき内容だったのかの検証は必要であった ・特に事前情報として仕入れていても、ゲームにマッチする判定なのかの判断を正確に行う必要はあった(イリーガルスクリーンなど) ・センターサイドでのショットへの視野の当て方に工夫が必要であった ・ロングパスからのスリーショットに対しての視野の当て方を後方に下がるのではなく、プレイにクロスステップし、フットアップにてショットを確認し、最後の手の接触までないかの判定を行う ・プレゼンテーションがまだ慌てているように感じる、余裕を持ったプレゼンテーションを				
自己の感想		PGCにて新しいメカニクスの確認や共有すべき点の確認を行った。またコートデザインがメインタイマーの位置がいつもと違う位置であったため、EOQ・EOGのプライマリーの確認も実施した。ゲーム中にはそれぞれのプライマリーでタイマー・ショットクロックの管理を行っていたと感じた。判定に関して個人的な反省は、マージナルな判定が多いことである。現象から判定するまでが早く、ひとつのプレイの結果を見れずに判定に至っていることが多い。そのため、選手としては大きくストレスを感じていなかったり、結果として取りあげるほどの減少でなかったりしたものを取り上げてしまう時間帯がある。プレイをもう少し長い時間見たうえで判定に繋げていく必要があると感じた。					

2019 年 度 第 4 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年度 第66回大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和元年 8月31日(土)				
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター				
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部				
●スケジュール	令和元年 8月31日(土)		サンエイワーク住吉スポーツセンター		
	9:00 集合・開講式 9:10 ルールテスト 10:00 実技講習開始 18:30 実技終了・解散				
●担当試合	令和元年 8月31日(土) 11:40 ~				
	対戦カード	関西外国語大学		VS	第一生命
	CC	田中 真規 氏	U1	廣瀬 俊之 氏	U2 木村
	講師／主任	茅野 修司 氏			
	講評	・プレイヤー、ベンチ、観客のすべてに伝わるようなプレゼンテーション →クロックの訂正はよかったが、レフリー間での解決で終わるのではなく、それをコート全体に伝えることのできるようなプレゼンの工夫が必要。 ・アウトオブバウンズの協力、CCM →ラストタッチの判定で明らかに逆のケースがあったが、本来ヘルプできる位置のレフリーも120%の確信がなくヘルプができなかった。 それぞれがCCMを持ち判定に参加していくことが必要。 ・プレイヤーにボールを与えるアクティブオフィシャルが気を付けること →急いで再開させる必要はない。ベンチの様子やTOの様子などから交代やタイムアウトがないかどうかを丁寧に確認する。 TOとのコミュニケーションミスでゲームが間延びしてしまい、ゲームの商品価値が下がってしまわないように。			
自己の感想	各カテゴリーの上位のチームが参加する非常にレベルの高い大会で、ファウルとして取り上げるべきものとマージナルとみていいものとの判断が難しく、選手の反応などからこのゲームのレベルにマッチしない判定が多くあったのではないかと感じた。 また、ゲーム中、クルーの判定に対しコーチからアピールがありその時にテーブルサイドにいた私に対応する場面があったが、うまくコミュニケーションを取ることができずそのままゲームを進めてしまったので、コーチや選手とのコミュニケーションの取り方にはまだまだ大きな課題があると感じた。				

2019 年 度 第 4 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦				
●日程	令和元年 8月31日(土)				
●会場	サンエイワーク 住吉スポーツセンター				
●講師	湯浅様、黒岡様、茅野様				
●スケジュール	令和元年 8月31日(土) 9:00 集合・開講式 9:10 ルールテスト 10:00 実技講習開始 18:30 解散				
●担当試合	令和元年 8月31日(土) 11:40 ~				
	対戦カード	関西外国語大学		VS	第一生命
	CC	田中 真規氏	U1	廣瀬 俊之	U2 木村 裕也氏
	講師／主任	茅野様			
	講評	・第1クォーターでプッシング、第3クォーターでブロッキングのファウルのコールをしたが、ポイントオブコンタクトは適切であったか。 ・第2クォーターでアウトオブバウンズに対してベンチからアピールがあった後、再開する際になぜボールポゼッションがそちらなのか、ショットクロックの残り秒数がなぜその秒数かなど声を使って説明するとベンチやギャラリーにもわかりやすい。 ・第4クォーターのエンドラインからのスローインでボールをプレイヤーに渡した際に交代のブザーが鳴った。ボールをプレイヤーに渡すレフリーがT.Oの様子や交代をしっかり管理し、ゲームが中断しないようにしなければならない。 ・アウトオブバウンズに対して、ヘルプをする必要のある場面があった。クルーチーフメンタリティを持ってゲームに臨むことが大切である。			
	自己の感想	・ファウルのコールの声だけではなく、なぜその処置になったのか、ゲームの再開方法などを声を使ってわかりやすく説明することが大切であると感じた。 ・リードからのローテーションで迷ってしまう場面があった。ボールの位置やフロアバランスを把握し、迷わず積極的にローテーションを実践したい。 ・ベンチやプレイヤーとのコミュニケーションは意識できた。 ・積極的に判定に参加していく姿勢を心掛けてゲームに臨んだが、マージナルもあったのでマージナルな判定をしないように判定力を高めたい。 ・ダブルコールの場面があったが、プライマリーがどちらなのかをしっかりと判断できるようにしていきたい。 ・トラベリングの判定が遅れてしまう場面があった。バイオレーションに関してはタイミングを逃さず適切な処置を意識したい。 ・3or2のヘルプをする際、正しくわかりやすく示せるように工夫したい。 ・クルーチーフメンタリティを持ち、毅然とした態度、立ち振る舞いでゲームをリードできるよう、自分自身を高めていきたい。			

2019年度B級第4回ステップアップ講習会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦					
●日程	2019年 8月30日(土)～9月1日(日)					
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター、関西大学北陽高等学校					
●講師	黒岡 和哲 様 茅野 修司 様 湯浅 剛 様					
●スケジュール	2019年 8月30日 (土)					
	9:00 集合・開講式					
	9:10 ルールテスト					
	10:00 実技講習開始					
	18:30 解散					
●担当試合	2019年 8月30日 (土) 13:20～					
	対戦カード	大阪体育大学		VS	履正社医療スポーツ専門学校	
	クルー	CC	花谷 慎子 氏	U1	池嶋 一幸	U2 正水 剛 氏
	講師／主任	湯浅 剛 様				
	講評	・メカについては大きな崩れはなく、ベーシックにできた。センターサイドでボールが運ばれてきた際にも、リード、トレイルがアーリーローテーションすることで対応できていたのでよかった。 ・それぞれがプライマリーを意識しておりゲームで実践できていた。ダブルコールになった際も、アイコンタクトでコミュニケーションをとりプライマリーレフェリーがレポートに行っていたのでよかった。 ・オフボール時の手の使い方をゲーム開始時にもっと意識してテンポセットするべきだった。鳴ったり鳴らなかったりすることがあるので現象がなくなる。オフェンスプレイヤーのFOMが崩れている場面は徹底して確認する。 ・AOSのプレイヤーに対してはもっと細かく見る必要がある。目線だけ残していても、顔の向きが違ふところを見ていたら周りからは確認していないような印象がある。ファウル、ノーファウルの判定よりも見ていたうえで判定をしているという周りへの説得力がほしい。				
	自己の感想	・メカやコミュニケーションについてはプレゲームカンファレンスで何度も確認したうえでゲームに臨めたのでよかった。細かいケースについてもスムーズに実践できたと思うので今後も継続していく。 ・今まで自分の中でプライマリーを課題にしてやってきたので、このゲームでそれがいい形で実践できたのはよかった。基本的にはクルー3人がシングルコールを意識してできていたと思う。ダブルコールの際もエリアなのか、アングルなのかをそれぞれがアイコンタクトで確認してレポートに行っていたのでよかったが、オフボール時の判定については課題が残った。 ・自分の中ではプレイを見ているつもりでも、周りからみたらどうなのかということをもっと意識しないといけないと感じた。プレイヤー、ベンチ、観客がどう感じるのかを改めて考える機会になった。 ・初日の最後に湯浅先生が「今与えられている環境が当たり前だと感じずに、高めあう集団になってほしい。」という話があったが、その通りだと感じた。このような機会を与えていただいて実際にたくさんの経験を積むことができ、改めて審判の重要性や楽しさが再確認できた。ここで得たものを今後活かしていけるように今後も自己研鑽を重ねる必要があると感じた。				

2019 年 度 第 4 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦			
●日程	令和元年8月31日(土)			
●会場	サンエワーク住吉スポーツセンター			
●講師	黒岡 和哲 様・茅野 修司 様・湯浅 剛 様・原 一正 様 大阪府審判委員会・インストラクター部			
●スケジュール	令和元年8月31日 (土)			
	9時00分	集合・開校式(第1試合割当者は事前に更衣可)		
	9時10分	ルールテスト(10問)A・B級の研修生		
	10時00分	実技講習会開始		
	18時30分	解散		
●担当試合	令和元年8月31日 (土) 10:00 ~			
	対戦カード	Black Jack		VS 履正社医療スポーツ専門学校
	審判	CC 玉上 大輔	U1 田中 孝史 氏	U2 森 照代 氏
	講師/主任	湯浅 剛 様		
	講評	・両チーム共に緊張感が無い状態でゲームに入っていたことに、気がついていたら？(学生は学生らしくないプレイ、社会人は勝ち気がないプレイをしていた。) ・コーチや選手と話す場合は簡潔に短く伝える。 ・登録者以外の子連れが白のベンチに来てコーチと話していたことに対しては、笛を鳴らし、一声掛けてから上の観客席で観てもらうよう伝える。 ・ゲームはシンプルに吹くこと。 ・笛を鳴らすべき所で笛を鳴らすべき場面なのに鳴らさないと思った後に、笛を鳴らしている。 ・ファウルのバランスが悪いからといって、無理に探して笛を吹く必要性はない。 ・審査は、ゲーム内のコントロールはもちろんのこと、ゲーム外のこともしっかりとコントロールする必要がある。 ・プロテクトシューターのプレゼンテーションはブロッキングではなく、プッシングにする。 ・2Qショットクロックはリングに当たり、成立していなかったのではないかな。 ・2Qショットクロックの確認はできていたか。 ・白の12番のFTの1本目は長くないか。 ・4Qの2分以下のプリベティブシグナルをレフリーがしている中で、選手が同じようにする必要はあるか。		
	自己の感想	メカやガイドラインをクルーで映像などで確認した後に、大会要項(ユニフォームの規定)やコートデザイン等、クルーで確認した中、ゲームに挑みました。 プレゼンテーションにシャープさがなかったり、意気込みすぎて激しかったりするため、映像を見て振り返ると浮いて見えてしまっている。また、状況にマッチしたプレゼンテーションができるように今後も研究したい。 また、ボール中心になって視野が狭くなっているため、Lがボールサイドにチェックインしていることに気づくのが遅く、CtoTができていないので課題としたい。 ダブルコールの際には、アイコンタクトができ、プライマリレフリーがテابلレポートを行うことができた。 第4QのEOGの確認不足のため、終わりの笛のタイミングは良かったが、ショットクロックと勘違いしてショットクロックの成立のジェスチャーをしてしまった。 大きなトラブルもなく比較的スムーズにゲームを終えることができた。 審査は、ゲーム内のコントロールはもちろんのこと、ゲーム外のこともしっかりとコントロールする必要性があった。CCメンタリティーを強化しないといけないと感じた。 今回の反省を次のゲームに活かせるよう取り組みたい。		

大阪府バスケットボール協会審判委員長殿

2019年9月2日(月)

大阪高校体育連盟審判員

森照代

2019年度 第4回ステップアップ講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第95回天皇杯 第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会代表決定戦						
●日程	8月31日(土)～9月1日(日)						
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター・関西大学北陽高校						
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部						
●スケジュール	8月31日(土)						
	9:00	集合・開講式					
	9:10	ルールテスト					
	10:00	実技講習開始					
	18:30	解散					
●担当試合	8月31日(土) 10:00～						
	対戦カード	BLACK JACK		V S		履正社スポーツ専門学校	
	主審	CC	玉上大輔	U1	田中孝史	U2	森照代
	講師／主任	湯浅剛氏					
	講評	・ゲームコントロールは、ファールを吹くことだけでない。試合開始前にベンチに入れるメンバーの確認。そういう所をルーズにするから、試合が締まりのない雰囲気に進んでいく。 ・コーチやアシスタントコーチと不必要な会話は控える。 ・不必要な体の触れ合いに対して、シンプルにファールをコールしていく。 ・ダブルコールやシングルコールの時も、プライマリーは誰なのかをもっと確認する必要がある。					
	自己の感想	選手のユニフォームの下に着るアンダーウェアの袖が出ていたことに対しては、ゲーム開始前に選手に伝えたが、コート外のところでのベンチ把握、ゲームコントロールができていなかった。そういうところかたもう一度、注意してやっていきたい。3POをする中で、メカのところは、以前よりできるようになってきたが、プライマリーをもっと理解する必要があると感じた。様々な映像を見たり、聞いたりして理解していきたいと思う。					

第 4 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第66回 大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和元年8月31日 (土) ~ 令和元年9月1日 (日)				
●会場	サンエイワーク住吉スポーツセンター・関西大学北陽高等学校体育館				
●講師	黒岡 和哲 氏 湯浅 剛 氏 茅野 修司 氏				
●スケジュール	令和元年8月31日 (土)				
	9:00 集合・開講式 9:10 ルールテスト 10:00 実技講習開始 18:30 閉講式				
	令和元年9月1日 (日)				
	9:00 集合 10:00 実技講習開始 17:00 閉講式				
●担当試合	令和元年8月31日 (土) 10:00 ~				
	対戦カード	関西大学北陽高等学校		VS	大阪産業大学
	主審	CC	大倉 哲也 氏	U1	西田 尚樹
				U2	河崎 亮介 氏
	講師／主任	黒岡 和哲 氏			
	講評	・T ポジションが高く、よりよい位置でプレーを判定することが出来ていなかった。 ・FTシューターの確認やネクストボナスの確認のときに、もっと声を使って、わかりやすいプレゼンテーションを意識することが必要であった。 ・意識してクロック管理を行っていたが、クロック訂正時に何が起こったのか、会場中にはっきりとわかるよう声を使って示すことが出来ればよかった。 ・POC の確認、ファウルの種類までこだわってレポートを行い、よりよい判定につなげる。			
	自己の感想	1ゲームを通して、T ポジションがアジャスト出来ていないことが自身の中で一番大きな反省として残っている。ゲーム中にT レベルが高いと感じながらも修正が出来なかったこともあったので、ゲーム中いかに修正していくか考え、また、修正できなかった原因や自身の心境をもう一度振り返り、今後に活かせるよう準備をしていきたい。 また、プレゼンテーションについても声を使うことを意識しているつもりであったが、大事な場面で声をつかうことが出来ず、会場中にわかりやすいプレゼンを行うことが出来なかったことも自身の課題として残った。何が起こったのか、会場中の誰もがわかるようなプレゼンを心掛け、1つ1つの判定や処置を丁寧に行っていくことにもっとこだわりの持つ必要があると感じた。 最後になりましたが、この2日間ご指導いただいた講師の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。			

2019年度第4回ステップアップ講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第66回 大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和元年8月31日 (土)		
●会場	サンエワーク住吉スポーツセンター		
●講師	・湯浅 剛氏 ・黒岡 和哲氏 ・茅野 修司氏		
●スケジュール	令和元年8月31日 (土) 9:00 集合・開講式 9:10 ルールテスト 11:00 実技講習開始 18:30 解散		
●担当試合	令和元年8月31日 (土) 13:20 ~		
	対戦カード	大阪体育大学	VS 履正社医療スポーツ専門学校
	主審	主審 花谷氏	副審 池嶋氏・正水
	講師／主任	湯浅 剛氏	
	講評	・オフボールでのプレイが整理できていなかった。映像を見返しながら、反省をいただきました。ポストでのポジション取りや逆サイドからのフラッシュの瞬間にディフェンスがコースを占めようとしているが、先に手で止めているケースが多かった。リード・センターがプライマリーであるケースが多かった。 ・ゲーム中メカニクスが崩れることがなく、スムーズにできていた。	
	自己の感想	・クルー全員でオビアスなものは取り上げられた。 ・処置等でのミスなく試合を終えられた。 ・自分の課題であるクルーチーフメンタリティーが出せなかった。 ・プライマリーの意識が少なかった。またセカンダリーでワンテンポ送らせて吹けるようにしなければならなかったと感じた。 ・TOにレポートが伝わらなかったことがあり、2回レポートしなければならない場面があった。声・プレゼンテーションを改善し、TOへ正確に伝わるようにしたい。	